

3級 【パターン】 傾向と対策

1. 作図・パターン展開

<身頃>

- ・展開線が記入された原型やあらかじめゆとり分量が展開されている原型、使用不可の袖原型等を誤って持参した受験者がいたが、原型を準備する際には注意すること。(ガイドブック・受験案内 P6 参照)
- ・前身頃はスクエアヨーク切替えがあるデザインであった。バストダーツを袖ぐりや衿ぐりに分散・展開した後、ヨーク切替えで処理することになる。ダーツ展開の際、袖ぐりや衿ぐりが大きすぎて浮きすぎとして減点されたもの、またその逆のものもあるので事前によく確認の上、受験していただきたい。
- ・後ろ身頃も同様で、前身頃とバランスをとり適度な分量を袖ぐりや衿ぐりに分散・展開し、残りを肩ダーツとしてとる。この時、ダーツ分量は減っているのでダーツの長さも原型より短くしバランスをとるべきである。
- ・前後身頃のダーツを展開した後、袖ぐり線を原型よりもゆるいカーブ線で引き直した場合、胸幅が広がる傾向がある。また、後ろ袖ぐりは、原型と同じ幅あるいは削り加減で引き直す傾向があるため、胸幅に比べて背幅が狭くなっているものが見られた。袖ぐり線の修正がうまくできないため、前後の肩線のつながりが角になり、袖のシルエットを崩してしまったものもあった。

<衿>

- ・今回の衿はシャツカラーである。幅とねかしのバランスや形状が重要になる。特に、身頃のネックラインカーブにあった衿付け線が表現されておらず（衿ねかしやカーブ線）組み立てた衿が落ち着きの悪いものが多くあり減点されている。事前の練習時にしっかり確認して試験に臨んでいただきたい。

<袖>

- ・袖の製図には様々な方法があり、身頃の袖ぐりに対して適当な袖山の高さを決めるべきであるが、袖山寸法を定寸（既習の寸法）で製図しており、今回の出題シャツブラウスの袖山の高さより高いものや、低いものがあった。袖山の高さは袖幅にも影響するので注意する。さらに、袖山のいせ分量が多すぎたり寸法が不足していたり、袖山の形状が不自然だったりするものが目立った。また、後ろに振られているものもあった。

2. 提出用ファーストパターン

- ・ファーストパターンは必要な記号などを記入することで確実に点数をとれるようになったと思われる。
 - ・ファーストパターンは規定寸法の範囲内であり、課題のデザイン画のバランスを読み、形よく構成されていること。全体としてのバランスと部分的な形状が模範解答に近く、縫い目線の形状が適切であることが求められる。また、鉛筆の線が一定した太さと濃さで描かれていることも重要である。
 - ・ファーストパターンを作成する際には脇線、肩線などを突き合せた状態で袖ぐり線、衿ぐり線、裾線その他の線のつながりを確認し、ダーツもたたくで線の修正をしダーツ山を作ってから完成させることが必要である。
 - ・課題に設定された着丈などの規定寸法や条件に関する説明を再確認し、要求されている記入事項として名称・地の目・記号・合い印・ボタン・ステッチなどが記入されていること。最後に衿、ポケットなど、必要なパターンが全て揃っていること。特に、パーツパターンの描き忘れや、切り離れたパターンが紛失しないように、最終的な確認を確実に行っていただきたい。
- ・最後に、ファーストパターンとは作図パターンを別紙にパーツごとにトレースして寸法の確認や縫い目のつながりが修正され、名称、記号、合印等、必要な事柄を書き入れたものをいい、ファーストパターンが最終提出パターンになる。ただし、フラットパターンメイキングで作業を行った場合は展開した原型や作図、展開パターンの添付も必要である。